

序

熊本野生生物研究会会長

西岡 鐵夫

最近の自然災害は台風や豪雨、洪水また地震など、各地で甚大な被害を発生させました。しかし、これらの大半は天災というより人災のような気がします。昨今の異常気象でさえ地球温暖化の先触れであり、人間の傲慢な環境破壊への影響です。私たちはこれらから多くの教訓を教えられ、多くの課題を与えられたのではないかと思います。

さて、本会は会員相互の野生生物の調査研究と、それを教育に寄与することを会則の目的に掲げ、1985年（昭和60年）の創立より、早くも19年が経過しました。そして本会の会員もそれぞれの課題に取り組み、熱心な活動を続けてきました。

現代は「環境、共生、人権、平和」の時代といわれます。国も2002年3月には人間と自然がバランスよく暮らしていくための「新生物多様性国家戦略」を策定しました。その中で人間の活動による生態系の破壊、一方でそれとは逆に、自然に対する人間の働きかけの減少、さらに移入種や化学物質による生態系への影響などが大きな課題とされています。特に私たちの身の回りの里地里山の重要性については、今後も多くの取り組みを要すると思われます。「調査研究」と「教育」に重点を置く本会の役割はますます重要性を帯びてくると思われます。

ともあれ、この会誌は本研究会の調査研究の集約ではありますが、会の軽重が問われるのもこの会誌でございます。本会の今後の発展のためにも、皆様より忌憚のないご意見やご助言など、多くのご指導がいただければ幸いです。